



Case 01 樋脇ホッケー



近年、スポーツには、健康増進・技術力向上などの従来の役割だけでなく、それらを資源として地域振興や観光につなげる動きもみられます。このような動きは今後ますます盛んになっていくでしょう。今回は地域に活力を与えてくれるスポーツに関するさまざまな取り組みを紹介します。

まちにぎわいと活気を



「樋脇の伝統結実」の文字が新聞に載ったのは、昨年10月。第68回国民体育大会のホッケー競技成年男子で、旧樋脇高校および川薩清修館高校のOBで結成した鹿児島チームが優勝を果たした翌日のことでした。

「樋脇ホッケー」の始まりは、今から64年前までさかのぼります。昭和25年、旧樋脇高校が新制普通高校となり、ホッケーを正課の体育授業に取り入れ、昭和27年に県内初のホッケー部が創設されました。当時は、山から木の根っこの自然木や自作によるスティックを使用したとのこと。創部3年目の昭和30年には国体に初出場し、昭和45年をはじめとする9回の優勝など輝かしい成績をおさめました。選手卒業生の中には、全日本チームの選手や指導者として活躍した方も多くいました。

全国でも有数の強豪校になった旧樋脇高校の存在に加え、昭和47年に鹿児島県で開催された「太陽国体」で樋脇町がホッケー会場になったことをきっかけに、樋脇町にホッケーが浸透し始めます。


昭和44年に結成された旧樋脇町役場の実業団ホッケーと樋脇中学校ホッケー部に続き、国体

で会場のお世話をするのだからルールぐらい覚えなきゃと、「樋脇ママさんホッケー」が誕生。国体を機に、競技者が幅広い世代に広がり、ホッケー関係者をはじめ、地域・行政が一体となり、ホッケーが町技として地域に根付いていきました。

国体後も町技ホッケーに関する取り組みは続いていきます。昭和53年には樋脇町内の小学校へホッケー用具を配備し、翌年にミニホッケー大会を開催。各小学校にホッケースポーツ少年団が結成され、平成2年には樋脇町ホッケースポーツ少年団が誕生しました。ホッケーの定着と相互の連帯を深め、明るいまちづくりに資することを目的に、平成元年から、ホッケー祭りを開催しています。今年度は2月23日(日)に開催され、子どもから大人まで楽しみました。各種講習会や小学校での教室なども行われており、競技人口の拡大を図っています。

国体チームの選手兼監督の永山さんも国体優勝を機にもっと盛り上げたいと語ります。これからホッケーは、まちの活性化や地域振興の一端を担っていくのではないのでしょうか。

第68回国民体育大会
ホッケー競技成年男子
選手兼監督 永山拓志さん



外的選手も多く、試合当日に初めて全員がそろった。練習も十分にはできませんでしたが、しかし、全員が旧樋脇高校または川薩清修館のOBで、「樋脇ホッケー」というチームの柱があり、縦のパスを通して攻める伝統のスタイルで優勝することができました。

お盆や正月などの帰省時にはOBが集まって練習をしたり、樋脇大会が開催されると地域の方が見に来て応援してくださったりします。国体優勝も樋脇のみんで成し遂げたことだと思います。

樋脇は全国的にもレベルが高いと思いますので、子どもたちには、6年後の東京オリンピックの代表選手を目指して、頑張ってほしいですね。



記事の内容に関するお問い合わせは広報室へ